

学会参加報告

Cold Spring Harbor Laboratory Meeting: Neurobiology of Drosophila

九州大学 システム生命科学府
後期博士課程3年 利嶋 奈緒子

アメリカ合衆国、ニューヨーク州にある Cold Spring Harbor 研究所は、数多くのノーベル賞受賞者を輩出し、最近までジェームズ・ワトソンが所長を務めていた歴史ある研究所です。また研究機関としての働きと共に、年間を通して生物学や医学分野の様々な国際会議や教育プログラムが開催されていることでも有名です。その中のひとつである、隔年開催のショウジョウバエ研究会議、**Neurobiology of Drosophila** に、日本動物学会江上基金の補助を受け参加することができましたので報告させていただきます。

私は今回が初めての **Neurobiology of Drosophila** への参加でしたが、参加人数は 400 人程と、これまでの開催よりも大規模になってきているらしく、この研究分野と会議への注目度が世界的にますます高まっていると感じました。会期中は朝 9 時に最初のセッションが始まり、終了は夜の 22 時や 23 時というハードで密度の濃い日程でした。発表演題は行動から神経発生や感覚受容におよび、幅広いショウジョウバエ研究者が集い朝から晩まで熱い討議を交わしました。

口頭発表は分野ごとに 5~8 題のセッションが 5 日に分けて 7 つあり、他に 1 時間程のロングレクチャーが 2 題ありました。3 日目の午前中はワークショップとなっており、5 カ所に分かれてセッションが行われ、私は最も興味のある **Crosstalk Between Peripheral Metabolism and the Brain** のセッションを聞きに行きました。様々な発表を聞く中で強く感じたのは、昆虫を材料とした栄養状態と恒常性の研究が非常にホットになってきているということです。私たちが 2012 年に発表した論文で、初めてショウジョウバエのアミノ酸摂食行動を報告してから 3 年が経過し、世界中でアミノ酸に注目する研究室が増えてきたようです。今回の参加者の中にもアミノ酸の受容体候補を報告するポスター発表者があり、それは私もすでに注目していた受容体であったので驚きました。私たちが研究を始めたときにはショウジョウバエのアミノ酸摂食行動は未開拓の

分野でありましたが、そこに注目する研究室が増えてきたことに喜びを感じると共に、のんびりと研究してはられないなど、身の引き締まる思いがしました。

私自身はポスター発表を行いました。ポスターの演題だけでも 300 を超えており、3 日に分けてポスターセッションが設けられていましたが、会場は人であふれ、発表者も質問者も必死に声を張らないといけないほどの活気に満ちていました。私が発表したセッションは 2 時間半の時間がとられていましたが、聞きに来る人が絶えず、気づくと規定の時間を約 1 時間もオーバーしてしまいました。聞きに来てくれた方のほとんどは初めて会うアメリカの研究室に所属する人たちで、同じく味覚を研究する方やアミノ酸を研究する方々でした。お互いの最新の研究成果を報告し話し合い、今後の研究の参考となる有意義な討議ができました。また、英語で発表や議論できたことも私にとって良い経験となりました。自分の研究を英語で発表することにはだいぶ慣れてきましたが、活発な議論の場に飛び込んで行くのはなかなか難しく、まだまだ自分の英語力の未熟さを感じます。今後、国際的に活躍できる研究者になるべく、英語力の面でも精進しなければならないと感じたと共に、今回の研究会議への参加は良い経験になったと感じました。

Neurobiology of Drosophila に参加したことで世界の研究の動向を見ることができ、中には同じものを追い求めている「ライバル」の存在も知ることができました。そのような人たちと情報を交換し合い、時に共同研究へと発展する場面があるというのも、このような大きな学会や会議に参加することの醍醐味であると思います。

やはりアメリカはショウジョウバエ研究においても最も進んでいる国です。今回アメリカ開催の大きな会議に参加してみて、アメリカの研究室の研究に対する空気のようなものを肌で感じることができました。それは日本とは、またヨーロッパとも違うように感じます。今回与えられた貴重な経験を糧とし、今後、日本のショウジョウバエ研究を牽引できるような研究者に成長したいと、決意を新たにしました。このような機会を与えて下さった日本動物学会関係者の皆様に深く感謝を申し上げます。